

3-8. 武田の里協議会（茨城県行方市）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

地域の特性を生かした観光化による行方市、特に周辺の武田地区の活性化を目指すべく、6次産業に力を注いでいる（有）くらぶコアと協同して、今年の7月の設立より活動している。食と農のテーマパーク体験交流館ふきのとうを拠点として、農業体験、交流イベントとくらぶコアの農場で採れた有機野菜や地域の特産物を使った食の提供を組み合わせた企画を具体的に企画していきたいと考えている。また、農業に限らず、地域の特性、祭り等を組み合わせた企画も取り組んでいきたいと考えている。

平成25年度からイベント実施による適正な利益確保という経営的な視点も重要であり、長期活動していくにあたり、イベントの計画的、定期的実施するためにどうしたら良いのか、現状を見ていただき、実行可能なイベントの組立方（考え方）、具体案のアドバイス等をいただきたい。



(2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成24年11月26日（月）～平成24年11月27日（火）
場 所	食と農のテーマパークふきのとう、農業生産法人（有）くらぶコア、行方フットパス 武田の里コース、行方観光物産館、水の科学館、霞ヶ浦（帆引き船）
アドバイザー	株式会社南信州観光公社 代表取締役社長 高橋 充 氏
参加者	武田の里協議会、（有）くらぶコア、行方市農林水産課6次産業推進室 合計11名
スケジュール・方法	【1日目】 活動概要説明～くらぶコア～フットパスコース～行方観光物産館、水の科学館～霞ヶ浦 【2日目】 ふきのとうにてアドバイザーと協議



(3) アドバイスの内容

●視察、打ち合わせ

- ・ 教育旅行をテーマに学生を受け入れている。農家の民宿もしている。
- ・ 地域の奥さんの話や精進料理等が好まれたりもする。
- ・ 営業の際に行政の方と一緒にだと社会的信用がもたれる。
- ・ 旅行会社の営業担当にプレゼンする必要がある。
- ・ 会社向けに研修で社内コミュニケーションをとるようなものを企画してはどうか？
- ・ 自分達と他との差別化のテーマになりそうなことを掘り起こす。
- ・ 安売りはよくない。付加価値を付けて提案していく。

●関係者協議

- ・ 半日のプログラムを幾つも用意する。そうすることで相手の希望に合わせ、組み合わせで半日コース、1日コース、1泊2日コース等対応できるようになる。
- ・ 寺や神社の存在価値、地形を説明するのは大事。
- ・ 暮らしの原点、不便さも体験してもらおう。ここはできる。
- ・ 地元のおじいさん、おばあさんが説明した方が絵になる。
- ・ ニート対策等社会問題と絡めても面白い企画できそう。
- ・ ネームバリューがある有名なところは行き飽きている。
- ・ お茶出しだけでも地元の人に参加してもらおう。
- ・ 冬場の企画はどこも弱い。
- ・ 観光物産館、水の科学館、霞ヶ浦（帆引き船）は地元民はあまり良いと思っていない傾向にあるが、自信を持って良い。

(4) アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 現在実施されている成功企画について話を聞くことができ、改めてここにしかできない題材が幾つもあることを再認識できて、これらをうまく企画化できれば成功するのではという自信、確信が付いた。霞ヶ浦も大事な題材であるということに気付いた。

●今後の期待される効果

- ・ 農業体験や、フットパス、音楽コンサート、地域のサークル発表会と地域で採れた農産物を素材とした食の提供を組み合わせた企画を立案し、展開していく。

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

- ・ 自分達のみで何とかしようと思わず、地域の方たちにインストラクター、案内人になってもらったり、行政とうまく連携して地域をうまく取り込みながら作り上げることが成功の要素の大きな1つであること。

●その他感想

- ・ ここでは当たり前のことでも、都会の人にとってはそうでないことが結構あったりして、そういうことが企画のヒントになるんだなあと感じた。
- ・ 私どもがやろうとしていることを、地域の人たちにいかにして理解してもらって協力していただけるかが重要であり、それが使命であると思った。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

株式会社南信州観光公社 代表取締役社長 高橋 充 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

武田の里協議会の中心となっている「農業生産法人（有）くらぶコア」については、オーガニック（有機農法）の生産量・出荷額についてはパルシステム（生協団体）との取引を中心として全国一の水準であるが、6次産業にも力を入れており、行方市がフットパスによるまちづくりを推進するにあたって、武田の里コースの整備も先駆的に3年かけて行ってきたとのことである。また、パルシステムとの共催で2年に1度の謝恩企画として、採算度外視で200名規模での大収穫祭の催しを行っている。同社では従業員を地域外の若者を中心に35名を雇用しており、6次産業事業部に5名、循環作物研究所に2名を配置する等広い視野に立った経営展開に取り組んでいることが覗えた。また、農場、堆肥センター、シフォンケーキ工房、武田の里フットパスコースの案内及び、観光物産館、帆引き船、パラセーリング、霞ヶ浦ふれあいランドの現地確認を行ったが、素材的には充分誘客可能なものと感じた。

●アドバイス（講義等）の概要

行方市の6次産業推進室の方を交えてのミーティングでは、茨城空港を含めてインフラについてはかなり整備が進んでおり、地域全体として観光誘客に向けて同協議会が先頭に立って進めて行く時期であり、他地域での事例も参考にしながら独自性を持って臨むことで意見が一致した。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

交流事業で大切なのは、実際に現場対応をされる方とそれを陰で支える組織や人であるが、武田の里協議会については、くらぶコアが牽引役となり、行方市と共同で広報・営業活動を行うことから踏み出せば、6次産業についてどこまでの次元を求めるかも含めて、進むべき道筋が見えてくることであろう。両者とも現場担当者は意欲的なので十分に期待できる。また、首都圏から2~3時間という立地条件は勿論のこと、オーガニック野菜の生産出荷が日本一ということは、企画商品としての付加価値を高めることができる。

教育旅行については、1泊2日の行程で考えると霞ヶ浦での環境学習プログラム、アウトドアスポーツプログラム（パラセーリング）、帆引き船（現状は小船に乗って湖に浮かんでいる帆引き船を見に行くということであるが、できれば実際に乗船できると良い）を活用したプログラムのセットで1日、くらぶコアでの農業体験やシフォンケーキ作り体験及び武田の里フットパスコースの活用でもう1日といった感じで4クラス160名程度の受入ができるようにすれば、首都圏の教育旅行団体は十分に誘客が可能であろう（宿泊はクラス分宿でも構わない）。また、パルシステムに対して実施している収穫祭企画を「日本一のオーガニック農場のオーナーのお話、有機野菜収穫体験、健康大麦シフォンケーキ付きの農場ランチ」のセット企画として作り込み、1人¥3,500~4,500位の価格設定で、首都圏の旅行会社やバス会社への1日滞在企画として提案をすればおもしろいのではないかと。また、フットパスコースも、現地で日本最初のフットパス全国大会が開催された際、初めて会う人々が1時間半歩き終わる頃には会話が弾むようになったというエピソードに代表されるフットパスウォーキングの魅力を生かすために、スタッフが道案内人（話し相手）として5~6人に1名ついて初対面の方々同士の潤滑油となり（マップでの自由散策は避ける）、地元の方々に協力をお願いして給茶所を設ける等して1人¥1,500程度（20名以上催行）で設定すれば、ウォーキングツアー企画としても十分に通用する。これまで旅行先としてあまり認知されてなかったことは、逆に新しい行き先として脚光を浴びる可能性があるため、まずは幾つかの企画を作って旅行市場へ打って出ることが先決であろう。また、当地への視察の希望もあるようだが、上田市の信州せいしゅん村の観郷ウォークも実際に体験すると参考になるのではないだろうか。